



わかることばで伝える重要性

診療・介護報酬同時改定が2月に発表されました。今回の改定では予想通り介護施設を含む在宅看取りを推進する改定となりました。特別養護老人ホームでは、看取り介護加算をしている場合でも在宅療養支援診療所側にも診療報酬上の加算を認めることとなります。これにより、特養での看取りを手伝って頂ける診療所も増えて行くことでしょう。また終末期患者への緊急往診加算も認められました。国は、明らかに地域での看取りを推進することを希望しています。

その一方で私が案じていることは、看取りにまでどのように関わって良いかわからない人が多くいるということです。今まで食事が摂れなくなれば病院に入院して点滴を受けるのが当たり前であり、何もしないまま見放してよいのか？という思いを持つ人は少なくありません。栄養面だけではありません。言葉のかけ方一つにしても、どのように声をかけて良いのかわからなければ足は遠のくばかりです。いくら施設の方針で、この春から看取りを行うと決めたとしても、実際に関わる現場の人達が何をして良いかわからなければ、亡くなっていく本人や家族だけではなく、関わる全ての人々が不幸になることでしょう。

私は、緩和ケアに従事するようになって24年目を迎えます。この間、学んで来たことは、痛み止めの使い方や悪い知らせの伝え方だけではありません。死の前に現れる理不尽な苦しみを抱えた人であったとしても、誠実に関わり続けることであり、何を基準に、どのように関わると良いのかを言葉にすることでした。

一言で言えば、本人と家族が穏やかであることを目標とします。

穏やかである条件を探すことを意識すると、関わる全ての人々が、自分にできることが見えて来るでしょう。一部の専門職がわかる言葉ではなく、子どもにもわかる言葉で、自分に何が出来るのかを伝えることが重要と考えています。

本人と家族が点滴を希望すれば、たとえ自宅や施設でも、（生活の場である自宅や施設という配慮をした上で）負担のない範囲で点滴を受けることができれば穏やかになれるでしょう。痛みがあるよりは、痛みがない方が穏やかになれるでしょう。同じように、保清の維持や、安心できる場所で過ごせること、信頼できる誰かとの繋がりを感ずることも大切になります。

もし90歳になる女性が危篤状態となり、療養されている介護施設に面会に来た11歳と9歳のお孫さん2人に、皆さんが話しかけるとすれば、どのように声をかけますか？

多くの人は、耳は聞こえていますから話しかけてください、と言うでしょう。決して悪いことではないと思いますが、お孫さん達は、何を話してよいかかわからないかもしれません。私であれば、次のように声をかけてみたいと思います。

「今日は面会に良く来てくれました。ここでは一緒におばあさんのことを考えましょう。どんなことがあるとおばあさんが穏やかな気持ちになれるのか？ということ。痛みがあるよりは、ない方が穏やかにな

れますね。これは、私（先生）が責任を持って担当しましょう。今まで住み慣れたこの施設で過ごせる方が、希望していなかった病院で過ごすより穏やかですね。お孫さん達にもできることがあるのでしょうか？

兄弟ゲンカをするよりも、兄弟仲良くしている方が、おばあさんは嬉しいですね。これはお孫さん達ができることです。そして、おばあさんが人生で大切にしてきたことをお孫さんに知ってもらえると嬉しいと思います。今は、おばあさんは話がほとんどできないかもしれませんが、それでも、もしおばあさんが、話がきたならば、どんな話をするかをご両親と一緒に考えてみましょう。そして、おばあさんがお孫さん達に伝えたい内容がわかったならば、おばあさんにその言葉をかけてあげてください。おばあさんは、自分の伝えたいことがお孫さんに伝わったと思えたならば、きっと嬉しい気持ちになれることでしょう。そして、そのメッセージは、お孫さんのこれから生きる力になります。大切に覚えておいてくださいね。」

ディグニティセラピーで用いる質問紙をご両親に手渡し、ご本人が答えるであろう内容を家族と一緒に考えていくことを通して、本人の推定意思を大切にしたいと思います。

これからの時代、看取りが病院から住み慣れた地域へ展開されようとしています。だからこそ、何をすると良いのか、わかりやすい言葉で伝えていく重要性を感じています。

小澤竹俊

新規の対応・看取りが増えました

昨年12月頃より新規の相談が増えて来ました。12月は新規相談が60件を越え、新規訪問開始が1日に7件という日もありました。そして1月に入り、看取り対応がさらに増えて来ました。2月20日現在で、今年になって在宅看取りは55件を越えました。それでも丁寧に余裕を持って対応できるのは、常勤医師8名、非常勤医師12名、看護スタッフをあわせた診療部が充実し、地域の訪問看護、薬局、介護職の皆さんとの連携が充実しているからです。まだ余裕があります。是非、めぐみ在宅クリニックをご利用ください。

診療実績

	2006- 2016年	2017年 1-10月	11 月	12 月	2017年 計	2018年 1月	総計
訪問回数	50,852	7,674	743	844	9,261	856	60,969
自宅永眠	1,769	178	26	12	216	28	2,013
施設永眠	218	54	2	7	63	4	285
在宅 (自宅+施設)	1,987	232	28	19	279	32	2,298
病院永眠	487	92	7	8	107	14	608